

願った慰霊祭



▲慰霊祭でスピーチするゴールドワージさん

53年の時を経て 2度目の訪問

元機長のゴールドワージさんが夫妻で来日した翌日の1997年9月25日。ふれあい公園で行われた慰霊祭に、約150人が参列しました。

慰霊祭では、全員で黙とうを捧げたほか、ゴールドワージさんを最初に取り押さえた菅谷賢司さん、「米兵に危害を加えるな」と指示した菅谷敏夫さん（旧萬歳村）と再会。「友人として皆さんに会えるなんて、53年前は知る由もなかった。両国民が常に平和に暮らせるよう熱い祈りを私のメッセージに託します」などと、英語と日本語を交えてスピーチしました。献花では、ラッパで鎮魂のメロディーが流れると、ゴールドワージさんは涙を流す場面もありました。

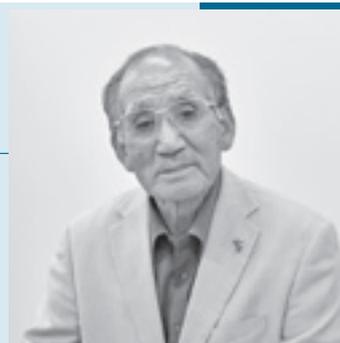
「一度目（墜落）は大変でしたが、二度目の訪問はとてもしばらしい旅です」と話し、公園内に「GOING IN PEACE」と書かれた平和の塔を建てました。

Interview

互いに平和を誓った

わたなべ きんじ
渡辺 金治さん（昭和7年生まれ）舟戸

53年ぶりに元機長が東庄町を訪問するにあたり、「B29元機長夫妻を迎える会」の渉外担当の役員として、運営にあっていた渡辺さん。会の発足や当時の思いについて伺います。



飛行機が西の空から飛来し、火だるまとなって落ちてきた1944年12月3日。今でも忘れず、まざまざと思い出します。

私は、宮崎さんから元機長来日の話を聞き、成功させるため手伝ってほしいと依頼を受けました。戦争の悲惨さ、そしてあの恐怖におびえたことが忘れられないと、即答しかねました。その反面、平和目的のためなら少なからずも役に立ちたいという信念のもと、歓迎すべきと慰霊祭に応援参加することとなりました。

しかし、事故に結びつくようなことがあってはならないと、宿泊場所、慰霊祭会場の選定を行いました。また、町が主催すべきという意見と、ボラン



▲東庄ゴルフ倶楽部で行われた友好の集い

ティアの力で実施すべきとの両論あり、結果として「B29元機長夫妻を迎える会」が結成され、ライオンズ

クラブの後援により行うこととなりました。経費の心配もありましたが、190人という多くの協賛会員の参加があり、資金も確保できました。

最も神経を使ったのは、警備上の不安でした。行事をよく思わない人たちから何か妨害などがあるのではと、警察や警備会社、関係機関へ相談し、格別の配慮をいただき、難なくことが過ぎました。

ゴールドワージさんも歓迎を大変喜んでくださいました。米国の地元では来日を止められたとのことでしたから、度胸があるなと思いました。憎しみはありません。互いに平和を誓い、犠牲になられた方を供養できました。

戦争は多くの人たちが犠牲を強いられ、衣食住から尊い命まで侵される事態でした。私の兄も終戦の3カ月前にフィリピンで戦死しました。いつの日か、兄の戦場で真実を知りたいと思っていたところ、当時の隊長や兄の戦友により、昭和60年に戦跡を巡拝することができました。ゴールドワージさんも機長として率いていたことから、当時の状況を知り、仲間の供養ができて安堵されたと思います。

平和と友好を



▲平和の塔を囲んで元機長夫妻と「迎える会」の役員の皆さん

歴史の証人として

慰霊祭後、東庄ゴルフ倶楽部で友好の集いが開かれ、敷地内にある墜落現場も尋ねました。また、夜には26日のゴールズワージさんの80歳の誕生日をお祝いしました。

それから帰国する日までのゴールズワージさんは、NHKの全国放送に出演したり、捕虜時代の品が展示されている江戸東京博物館や、彼を襲撃した日本人パイロットの家族に会ったりするなど、いろんな場所を訪れ、たくさんの人に会いました。

帰国後、日本行きを心配した多くの隣人や知人が、自宅に詰めかけたそうです。墜落した地を訪れることに不安を抱いていた人々は、日本で大



▲成田で色紙を受け取りにこやか

歓迎を受けたことに喜び、驚いたとのこと。また、ゴールズワージさんは、日本での出来事を話したり、講演の依頼を受けたりと、歴史の証人となって日米の平和を願いつつ、有意義に過ごされたそうです。

私たちはどう生きるのか

会の代表であった宮崎雅夫さんの情熱は、戦時中に東庄町神代地区に墜落したB29の記録を後世に残そうと体験記を各方面に依頼し、記録文集を作ったことから始まりました。そして、この想いが慰霊祭の推進力にもなりました。

また、長澤さんがゴールズワージさんと出合い、友人として交流する中で互いの戦争の傷跡に触れ、物語が動き出しました。自らを撃墜したパイロットや、墜落の場所を知りたい、襲撃の勇気をたたえたいとの想いに応えたのが、長澤さんでした。

そして、熊谷さんの綿密でいてねいな調査により、事実が明らかとなり、慰霊祭が行

われることになりました。現在、慰霊祭の役員をされた12人のうち5人は亡くなられ、代表の宮崎さんもご逝去されました。長澤さんとゴールズワージさんに連絡はとれませんでした。ご健在であれば100歳を超えています。

B29が墜落したあの日、多くの人が空を見上げ、いつもとは違う、ただならぬ雰囲気を感じ、日本の戦闘機が飛び交う様子を見ていました。しかし、戦争という語らずの社会(裁判にかけられる可能性があった)の中で、町の記録として残っている資料は少ないと感じました。令和という新しい時代を迎えても、あの戦争をあの空を忘れても、平和な日々から感謝し、恒久



▲平和を願い握手 (岩田町長とゴールズワージさん)

平和のため、戦争の悲惨さや恐ろしさを次の世代に伝え、く努力が必要があると思いをした。

《参考文献》

- 二度目の着地
B29墜落事件記録
東庄町史
香取民衆史
雑誌「丸」
POW研究会ホームページ
《写真提供》
渡辺金治さん



▶二度目の着地の裏表紙にはゴールズワージさん夫妻のサインがある。そして、表紙と裏表紙の写真は、12月3日出撃前のB29ロゼリアロケットの搭乗員12人。

町戦没者慰霊祭

日時 8月15日(木) 10:30~
場所 町公民館 大ホール
※当日は送迎車を運行します
問い合わせ
健康福祉課 福祉係
☎79-0910